夕刊 磐城新聞 五月一日發行

定價 一ヶ月 金六十五錢(郵稅拾五錢)
廣告料 五號一行 金九拾錢
福島縣石城郡平町 發行兼編輯人 印刷人
發行所 磐城新聞社
電話五六四番

(日曜祭日翌日休刊)

行き詰れる歌人に與ふ

渡邊徹

ここには『母を醫師に見せたい、なれども金がない！』といふ自分の生活上の矛盾が歌はれてゐる。これはたしかに人の胸を打つものがある、恐らく金もちでないかぎり、この歌を讀めばこれは人ごとではない――と自分の胸に感ずるだらう。けれどもこの作者がもつと深く突つこんで『自分がこんなに働いても百圓の金が出來ないのはどうしてだらう』と考へて、それは資本主義社會の矛盾にあるのだ。金持や地主がゐて俺たちを搾ふからだといふことを身に滲みて感じて歌をつくつたら『願ひもむなし』だけでは濟まされなくなるに違ひないと思ふ。さうすれば の歌は一段と飛躍して非常に良いものになるだらうと思ふ。

自分の生活の矛盾が、社會的な階級的な矛盾の認識に結びつけられ、それと闘爭しようとするより強い階級的感情(感情一般ではない)――資本家、地主への深い憎惡の感情が生き生きと滲み出て、一層強くわれわれの胸をグングン壓しつけることになり、それだけ藝術的な感銘を深く與へることになるのである。

それにこの歌では作者が(又は歌はれてゐるものが)農民なのか勞働者のか、會社員なのか小店員なのかゞわからない。もちろんその前に同じ作者によつてもう一首――

百姓よりいゝ仕事だと誰やらの大きな聲が耳にひゞくも

といふのが作られてゐるので、どうやらこの歌では農民が歌はれてゐるんだなとおぼろげに感ずる、だがその農民が小作農なのか、中農なのか、小地主なのか、小作農でも貧乏小作なのか一町以上も耕す小作農なのかゞはつきりしない。こゝにこの歌の決定的な弱みがある欠陥がある。『百圓の金を得て母を良い醫者に見せたい』とは、乞食でも、のらくらしてゐる農民でも、寄ん棒の高利貸の息子でも歌ふことが出來るではないか。若しこゝで、それが働いても働いても食ふにも困るやうな貧農の生活がハッキリと歌ひ出されたら、それでこそより深刻に、如實にわれ／＼の胸に迫つて來るに違ひない。

つまり、どんなにひどく地主から搾取され、資本家が戰爭をするための税金がその生活の重荷になつてゐるが、等々を農民の日常生活の具体的な姿の中から歌ひあげられたら、この母の病氣に際して『願ひもむなし』であきらめるといふ弱い感情ではなく、強い。そして人の胸に食ひこむやうな迫力を逆らせるに違ひない否單にそれだけにとゞまるばかりではない。それが今度は實踐的な力となつて、(この間若干削除)といふ決意にまで人々を驅り立てるやうな、すばらしい政治的な力にまで高められた本當の藝術的作品となることが出來るのだ。だがその歌人は同時に、文化活動における組織的運動の實踐にまで進むことが要求されて來る。そこまで進まなければその歌人は本當に心から『現實』を歌つてゐるとは言はれないからだ。

磐新歌壇

小山田滋選

初めて北斗莊を訪ふ　青山貞三

○町はづれ北斗莊なるこの家にうた讀む人の住みてゐませる
○大きなる眼鏡の上より吾れを見る師のみ姿に親しさをおぼゆ
○製糸場の終業ならむサイレンの音遠く聞く午後の九時なり
○ね足らいて庭に出づれば朝鴉すがしき聲に啼きつれゆけり

第三回好間石雞句會

花大根埃のまゝに開きけり　水棹女
虻とんで大空まろく晴れにけり　何鳴
參道の標木新た夏に入る　秀山
初夏の海に疲れし眼かな　武門
蜃氣樓の消えたる潮高鳴りす　寒山子
温き土踏めば埃れり花大根　磐洲子
鉢近く虻の來てゐる露臺かな　水棹女
虻去りし空に夕影ひろごりし　何鳴
初夏の汐に觸れたる素足かな　寒山子
かばかりの大根に花の咲きにけり　喜山郎
興奮の頬かゞやかし海市見る　寒山子
畑中にある水穴や花大根　秀山
叩きたる虻の血濃ゆし掌(たなごゝろ)　みのり

山吹

原勝

山の池に
ひとり來て
遠い兄さのこと想つた
さくらも散つた
岸に
山吹の花がさかりよ
かすみの中に
ゆれる山
あの徑を兄さは行つたよ
小石を水に
投げて
山吹の花へ顔を寄せた。

新刊紹介

△人生　帆足理一郎個人雜誌五月號(卷頭言)甲の形式と乙の實質(論説)罪(詞藻)ワアヅウォースの『雛菊へ』(研究)クリスト教の本質『ハアナッタ』第五章福音と苦行觀(時評)滿洲問題の拘束(人生問答)其他(一冊十五錢東京市神田區北神保町二新生堂)

社會の今日

5月2日　△詔して風土記を作らしむ(和銅六)△征韓軍長驅京城に入る(文祿元)△浮世繪師歌麿歿す年五十三(文化三)△早曉十五丁目出火二戸燒く△政友會縣支部總會△學生思想問題調査會總會で學生思想惡化の原因と對策に關する答申案決定△支那山東角沖で神戸大關汽船の吉林丸と川崎汽船のたいん丸衝突、たいん丸沈沒し乘組員行方不明數名△上海に於ける停戰協定成立△聯盟支那調査委員新京に入る(昭和七)

○

句　雨　平塚義雄

水使ふ音も冴めく厨かな
懷かしや幼き頃のその儘に、五月の空に鯉泳ぎ居り

講談　劍火無情 (2)

津屋義人作　菅野祐作畫

萬歲の無心(二)

醉倒れた萬歲といふは黑の揉み烏帽子の能くうつる眉の太い鼻の高い、身長五尺六寸有餘、風采堂々として滑稽味など微塵もない立派さであつた

上女中のお春は

『あのお二人とも、お登んなさいまし、旦那樣も今お客樣がお濟みになつた所だから直其處へ通せ、松の內の祝ひ話などするが可いと仰有いました』

才藏は躍り上つて喜んだ

『へイ／＼何うも有難い事で……太夫さん聞いたか。賞に好い旦那ぢやないか。奥へ通れと仰有つて下さる俺はマアこんな立派なお邸の奥へなんか生れて初めてだ』

大夫も喜んで草履を脱ぐ

才藏は瘤止めの踏み脫ぎ無性草鞋とかいふのを脫ぎ捨てゝ

『足は綺麗でございますから、左樣なら此儘御免を蒙ります……太夫さん、お廣いもんぢやないか……ソレお疊廊下だ。ア、氣持の好い住居だね』

獨りしやべりながら通つたのは、金屛風で圍んだ一室

『謂はゞ大道藝人の私風情がお勝手でお禮を一寸述べて歸らうと存じましたに斯樣な結構なお客室へお通し下さいまして寔に恐縮の外はございません』

太夫は烏帽子を脱ぎ素袍の袖をしぼめて遠慮勝に坐つた

主人は相手に氣乘させまいと、故意と着流しで胡坐をかき乍ら

『イヤ客の歸つた跡で取散らしてゐるが、寛いで飲んで吳りやれ、コレよお春酌をして上げんか』

才藏は出された膳の上を眺めて

『コレは大變な事になりましたなア、太夫さん今年は國へ歸つて好い土産話が出來たと申すもの。ア、――有難い事だ』

『もそつと進むが可い、イヤ當家に於ても正月早々萬歲の轉げ込んだといふ事は洵に目出度い吉兆と存じて居るのぢや、決して遠慮なく悠りと飲むが可い今度醉倒れたら兩人とも泊めて遣はす』

『ヒエ――、マア何といふ偉い旦那だらう、太夫さんまづお禮を申上げなさい』

『まあ／＼落着いて飲むが可い、それに拙者は諸國の話を聞くのが好きであるが何うぢや三河の方には面白い話があるであらうの』

太夫はさゝれた盃を押戴きながら稍眉をしがめるやうな容子で

『初春で目出度い／＼と申しまする中にもあの黑船が浦賀へ來て以來、世間が騷がしうございまして私の國なども御領主からして何方へ附くか見當が付かず、況して數ならぬ私共は何うして可いのか判りません。何分勤王々々といふ、其ぉ方が惡い事をなさる。又佐幕方といふ方のお人も隨分惡い事をなさいます。百姓町の民である限りは何方でも可いでは居られません、イヤ困つた世の中になりましたものです』

主人はもう耳が熱して大分銘酊してゐるらしく稍や興奮の体で

『其處ぢやて、萬歲の太夫殿でも今言つた其一言。同じ大和島根の民族である限りは、譬へ野末の小屋の袖乞ひでも天下の形勢に依つて己が思ふ所存は飽くまでも貫かなければならんが太夫殿は徳川贔貝か、それとも天子附きかな』

萬歲は坐容を正した

『大道に皷を叩き、扇を開いて舞ひうたふにも、君御萬歲を唱へ、門附けするにも素袍大紋烏帽子を戴く、是皆一天萬乘の大君に對し奉つて尊敬の禮儀でござる　一文二文の錢は乞へども吾々は上に天子あるを知つて、中に將軍あるを知らず大の天子樣附きでございます』

主人篠崎頼庵は忽ち大喝した

『さてこそ汝は僞萬歲、何れかの脱藩士にして天下浮浪の徒であるよな』

『ナニ僞萬歲とは』

『三河の國は徳川東照神君の發祥地であるに其地に生れし三河萬歲が何故あつて徳川將軍に附かぬ、汝を僞萬歲と申したがあやまりか申開きあらば聞かん』

次室にふすまのすきから萬歲の返答如何にと窺つてゐるは頼庵の獨り娘、妙子が美しさのいやが上にも美しい初春の晴着姿であつた

青い灯　三

八幡秋月

何時も淋しそうな祐二にしては全く稀らしい程陽氣だつた

斯うして表面大變愉快そうな時間を二時間ばかりすごすと祐二は急に氣が付いた樣に歸ると言ひ出した

『もう、歸るの?』

玲子は淋しそうに聞いた

『う。守りおそくなると家の方の具合が惡いからネ』

『そう』

うなづくと玲子は眸に淋しい色を浮べながら、詮なさそうに立上つて會計に部やを出て行つた、階段を降りる玲子の足音が消へると祐二は急に[redacted]を與へた

『妾、心配してたわ、捨てないでネ』

微かなあや子の聲は感激にハヅンだ

間もなく冷子は若干の釣錢を盆に竝べて部やに入つて來た。

『御待遠樣』

『憶しかに御待遠だつたよ!』

冗談に笑ひながら祐二は釣錢を受け取つた

『ホホホ、今晩は隨分朗かなのね』

『大いに然り、冷ちやんとひ度いんでね』

『まア憎らしい』と冷子は一寸睨むまねしてから

『だから是れからも御無沙汰せずにチヨイ／＼入らつしやいね』

『ハイツ。謹しんで冷子嬢の御命令を遵奉致します』

『まア……。憎らしいの』

冷子は優しい手を振り上げた

『ハハハハ、御免々々』

祐二は仰山に恐縮してみせた

やがて三人は賑かに部屋を出て階段を降りた、あや子の手にて外に開いたドアから宵の街に半歩踏み出した祐二はクルリと向き返つて

『サア、冷子嬢握手!』

と右手を差し出した。

玲子も微笑みながら右手を出して二人は握手をしたそして次にあや子とも握手した

『また來てね』

小さく祐二の耳許に囁くあや子の聲

『ム來るよ』祐二も小さな聲で眞劍に答へた。

御卒業御入學記念
實用時計景品付
破天荒の大特價
クローム側腕時計…金五圓五拾錢より
此の外各種眼鏡の大特價
根本時計店
電話六〇七番

有給社員招聘
經驗ノ有無ヲ問ハズ奮闘ノ士ヲ望ム
在鄕軍人退職官吏優遇
(初任者指導ス)
希望者ハ履歴書急送アレ
郡山市堤下三二番地
富國徵兵保險相互會社監督部
徵兵保險ハ相互ニ限ル本邦唯一ノ相互保險

春の傑作流行歌
サーカスの唄
僕の青春
濡つばめ
島の娘
淺草の歌
其他五月新譜澤山着荷致しました。
(御注文次第早速御屆致し舛)
金光堂時計店
五丁目　電話一九五番

創立　生徒募集
磐城女子洋裁專門學院
今や一般家庭に無くてならぬ!洋裁を知らねば恥の時代となりました。時代に添ふた、スピーディな合理的個人教授……
入學……毎月初日
ミシン無料貸與及び材料貸與の方法あり……
學則郵券二錢封入…自炊寄宿の便あり
平町白銀町五拾五番地

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町(元眞木辯護士跡)
增田耳鼻咽喉科醫院
電話四八二番
(入院隨意)

シンガーミシン
今や家庭の裁縫は悉くミシン裁縫の時代で御座います、シンガーミシンを現金なれば安く月賦なれば七圓で販賣致します
今が一番の買ひ時!
格安整理品もあります!!
◎ミシンはミシン會社から!
◎新品中古品共大勉强……!
◎中古品は買入と販賣……!
平町田町
シンガーミシン平販賣所

新製品發賣!!!
ジャバ・モカ・グアテマラ
コーヒー通待望のコーヒー來る……!
本場コーヒー三種配合挽立
1/4封カン入三五錢
1/2封カン入七十錢
味覺滿點
香味本位の本場銘茶を召上りませ……
電三九六番
大勝園

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
山內醫院
醫學士山內亨吉
電話六九一番
入院隨意
病室完備

江戶前
當店に於て自慢の
大蒲燒
割烹
壽司
開業以來
特に『都壽司』は江戶一流の職人を迎へて食通の皆樣方に御賞讃を頂きお蔭樣にて大繁昌をいたして居ります。
都壽司は魚榮と御思召して……
御ひゐき下さる樣御願申上げます。
田町　魚榮
電話四二四番

懸賞尋ね自轉車
弊店所有新品車鑑札番號
福島縣2 一〇四、二八〇番
平 六、九四一
一臺
右、新品自轉車ハ去ル三月二十二日購入セシガ、四月八日以來行衛不明トナリシ故、發見御知ラセ下サレシ方ニハ懸賞五圓、御屆ケ下サレシ方ニハ、ドナタニ不拘拾圓也ノ懸賞金ヲ差上グマス故御心當リアル方ハドウゾ直チニ御知ラセ願ヒマス。
平町三丁目、三六(元郵便局思通リ)
各國產漆器商
共榮漆器店

吉田眼科病院
平町紺屋町

月曜論壇

初夏雜感

時は今天が下知る皐月かな。愈々平町會議員選擧の月に入つた。聰明叡智、謙勞蘊恐、蓋し其の顏ぶれは未だ以て詳細に知るべからずと雖、再起新顏の如何を問はず所謂候補者と云はるる程のものは、平常寒煖の挨拶をさへ交へざる路傍の人が遂に別人の如く叩頭して意味深重なる阿諛追從に出る露骨を敢てし當選の爲には儼然自ら居るべき男兒の節操矜持無くあらゆる厚顏無恥のシーソーゲームを展開する場合多き淺間しい季節となつた、今年の初夏の何と惱ましき事よ

〇

歲々年々花相同じ。今年も復た吾人は晩春の松ケ岡全國繽紛の落花によつて、物事が如何に切り上げ時の肝腎なるかの男性的活敎訓を與へられた。然り人間は引つ込み時が大切である。若し夫れ躑躅逡巡責にその時機を愆らんか、思はざる世人の輕侮嘲笑を買ふ場合無きや測り知るべからざるものなしとせない。

〇

即ち既往四年間親しく町政に參劃し町議としてのテストを經た現議員中公人としての過去を清算し、其間町の爲盡瘁したる功績として敢て首肯すべき何物をも發見し得ぬ人あらば須く此際再起の野望を拋ち斷然勇退して以て後進の途を拓くべきである。花吹雪の壯觀を見せ乍ら歸するが如く散つて枝頭色褪せた敗殘の醜を止めぬ櫻花は還緣の消息に就て最も簡明直截なる活敎訓を吾人の前に垂れて吳れた。

〇

適々それらの人が小兒病的狂躁から冷靜な我に還り正しき角度から自己を客觀して再起の野心を捨つると同時に新に町議たらんとする人々が徒に淺薄なる名譽慾に驅られず靜かに自己を認識しての立候補であり周圍亦その人物識見を承認する底のものであるとせば今次の平町會議員選擧こそ眞に吾人の要求を充たし得るものと云ふ事が出來る。

葉ざくらの平指して 全縣下の町村長參集

あすから二日間第三小學で

知事以下四百五十名が出席開會

縣下町村長會は明二日午前十時から二日間平第三校で開催、赤木知事を始め來賓其他四百五十名が出席左記日程により三日閉會する

△第一日―勅語奉讀(會長)開會之辭(同)知事告辭(菅沼石城支會長)會務報告(幹事)優良町村吏員表彰(相馬郡磯部村收入役湍澤作四郎、石神村同羽根田權其他)來賓祝辭受賞者答辭(正午休憩午後一時再會)協議 △第二日―役員選擧、講演(全國町村長會主事福井清通氏)閉會

鹿島は一名超過

愈々明二日村議選擧

鹿島村の村會議員選擧は愈々明二日午前七時から村役場に於て投票を行はれるが定員十二名に對し今一日朝迄に正式の屆出をなした顏ぶれ次の如く超過一名の十三人で果して何人が落選の苦盃を嘗むる事になるか最後の五分間を在所に白熱戰が演せられるものと觀測される

四家重雄、高萩民雄、志賀直彌(以上再)佐藤米治、鈴木傳、佐藤良近、箱崎弘之、佐藤善太、鈴木一男、江尻仲、赤坂稔、鴉沼忠美、波立忠作(以上新)

新綠薫風の高月に 九校廿六兒の爭覇

磐中の八百繼走迫る

中三日の後に迫つた磐中運動會當日の郡下小學兒童八百米繼走に各校共猛練習中であるが昨卅日迄の申込は左記九校卅六名で例年通りの盛況を豫想されて居る

(平第一)阿部供祐、關口靖夫、鈴木保光、佐藤喜一(第三)石野國人、佐藤進、武田省三、久保木清次(内郷第一)鈴木友三、遠藤正清、高橋政治、鈴木國雄(内郷第二)渡邊*次、阿部幸夫、高田安雄、高橋一美(内郷第三)伊藤一郎、藤田正雄、齋藤義春、安齋次男(勿來)鄭聖斑、井桁靜夫、結城力雄、菅野耕正(高久)矢吹仁太郎、本馬孝雄、箱崎政義、鈴木義重(大浦)佐藤忠雄、箱崎直人、佐藤忠雄、渡邊安壽(小名)薬谷勝男、土田稔、田邊春男、片寄保吉、小

子持女も交つて 村内を示威行進

内郷のメーデー無事終る

今一日のメーデーに内郷村では乳呑兒を背負つた女も多數交つた失業者代表者菊地壽一郎以下約六十名が午前八時頃から村内を示威行進の上役場に沼田村長を訪れ

一、匡救事業即行 二、ボタ炭拾ひ容認 三、金品替與方 四、工事の進捗執行

以上四項を要求したに對し村長は第一、第二は關係筋と協議の上、第四は相當考慮の上何分の措置に出づる事、第三は之を拒否する旨を告げ數日後再會を約して引き揚げた

遠來水鐵の爲に 磐中平商共慘敗

昨日の野球戰况

平商對遠來水鐵の野球戰は昨卅日午前十一時から磐中グラウンドに於て水鐵先攻にて開始

平商	0	0	4	0	0	0	0		4
鐵水	6	0	0	1	9	0	4		20

のスコアーで平商軍の慘敗となり、磐中友軍の雪辱を期して善戰したがこれ亦

磐	2	1	0	0	1	2	0	1	1	8
水	4	0	7	3	0	5	0	0	0	19

で敗戰した、因に三チームのメンバー左の如し

	鐵水	磐中	平商
投	塚田	石坂	赤坂
捕	伊藤	杉浦	渡邊
一	岩崎	田中	宮原
二	加藤	荻野	阿部
三	前島	金成久	佐々木
遊	小林	小井戸	森
右	平戸	阿部	沼田
中	宮谷	小野	日野
左	山本	金成金	宮本

見學の途上から

磐女旅行隊―(第四信の一)―

さらば京都よ!

今朝で京都ともお別れ三日二夜の疲れを休めた大正館に別れを告げて、最後の京都見學―東本願寺に到着、建築の壯大さには例の樣に驚かされながら可愛いゝ鳩の戯れに見入り、京都停車場へと

青丹よき奈良へ

午前九時發の汽車にて奈良へ。十時近く到着。驛前其の他の裝飾に私達は奈良いろは館に荷物を預け奈良名所舊跡めぐり、猿澤の池にて絹掛けの柳に古の采女の物語を偲びながら……。

石子詰の舊跡―春日神社へ……。

第一の鳥居を入る頃から無數の燈籠を見る。案内人の說明によれば約三千位だそうである。市民情操の凝結であるといふ社殿の朱塗築物である大佛殿。世界最大の木造建築物である大佛殿。安置されてある大佛は長谷より遂に私達は奈良

麓にて記念撮影をなした。へてゐるらしい芝生の山の景色に和かさ柔かさを與嫩草山へ(三笠山)奈良…(第四信ノ二)…接木をしたものであるからたが何でもない事である。木は始め一寸不思議に感じ想はせられた。境内の寄生の一面の生活と昔の華美をかに大きい

與福寺へ。五重の塔を見る宿に歸り遲い晝食をなし奈良停車場へ行つた。鹿と奈良。印象的なこの光景。

古都奈良に相應しい鹿。約午後四時奈良發二見ヶ浦へ。車中の人となつた私達は六時四〇分頃着いた。此所は、賑かな都市ばかりで歩いて來た私達に落着いた氣分を味はゝせてくれた…(第六信)…

一見から山田へ

優美な山を後に東大寺へ入った。二月堂、三月堂、四月堂を臨みながら、說明をり歩いて來た私達が悠然と枝をひろげて雨を浴びてゐるのも、濃い

五時半起床、昨夜雨で歩暗いともすれば甚苦しく、なかつたせいか今朝はみいかめし過ぎる老杉をたすけて、新しく伸びゆく力をんな元氣。

七時出發、小雨模樣、有感せしめる。内外宮ともに名な二見の日の出がその爲あらたに私達が、のぶべきか見られない。電車にて山言はない。壯嚴、清麗、西行法師の和歌こそ、もつとも適せる言葉であらう。汽車にて名古屋に向ふ。

八時參宮。雨がひどくなる、明治の御世に出來た御幸通りを通りていよ／＼神宮の鳥居に入る。『ほんまによい景色どすえ』と覺えたての京辯がポロリと口からも出た。水々しい若葉のミヂが悠然と枝をひろげて雨を浴びてゐるのも、濃い

二時三十五分名古屋到着バスにて名古屋城に向ふ。雄大な城を見た時、天主閣といふもの丶建築に驚異に打たれた。

四時半濱松に向ふ。着七時二十一分。

在軍評議會

平在鄕軍人分會では二十九日午前九時から松ヶ岡公園春木亭で評議員會を開き模範會員眞弓萬助、久保田英三、中野文語三氏を表彰し役員改選の結果左の如く決定した

監事山崎濟三、理事三浦富亥男、評議員太田良一、鈴木三郎

等馬目太平治(内郷村)

一等は仙臺沼田氏

クレー射擊會盛況裡に終る

縣獵友會平支部主催杉山鑛業所及本社後援のクレー射擊大會は二十九日午前十時から内郷村綴工作所西方山神祭前射擊場に開催參加五百餘名で受賞者左の如し

一等沼田勝三(仙臺市)二等杉山今朝吉(内郷村)三

野壽雄

青年團總會

六日マルトモで

平青年團總會は來る六日午前九時からマルトモホールに開催、團長及副團長の改選あつた後廿六分團より一名宛の表彰式あり其他講師として新任磐中小檜山久作氏を招き講演會を開催すべく目下交渉中である

高田伍長へ弔慰金

立派に殉職と決定

平町鎌田町消防伍長高田清一郎氏は過般月見町の出火に出動し心臟痲痺で死亡したが殉職と決定、山本消防協會長から弔慰金二百五十圓を贈られ今一日平署から妻みい氏に傳達した

保護者總會

平三小學校の保護者總會は來る十五日午前十時から第二校に開催、決算報告、評議員の改選の外同校講堂に兒童の學藝會を催すと

平窪青年 道路改修

今愛護デーの奉仕

平窪青年團では今一日道路愛護デーに二百餘名が出動し村縣道の改修工事に從事した

鈴木積善師が 井草幼稚園創始

保育事業に鮮かな躍進

是井村矢の目如來寺の住職で現在傳通會館を主宰し中央の布敎界に活躍してゐる鈴木積善氏は從來こどもの會、日曜學校等の研究や實際運動、保育中心の隣保事業に從事すること二十餘年この間理想的な幼稚園を計劃中であつたが昨年四月我國の宗敎改革者法然上人の降誕八百年を記念すべく降誕にあやかつて兒童の敎育と家庭淨化の二つの運動に猛進し傳通會館理事長同院貫主木村俊師の贊意を求め拮据經營竟に杉並區上井草町に適地を相し廣くて明るい井草幼稚園を創設し此程盛大な開園式を擧行したが右は敷地二八八坪一八、建物延坪數八四坪八四四で宮内省内匠寮森久吉技師の設計監督に係るもので同園の綱領たる 一、靈肉一致の全人敎育 二、作業中心の自由保育 三、共同偕和の生活訓練の敎育を施すに相應しい近代的建物である

出船の仕度中 ロップに捲かる

手當効無く若衆の死

江名町南町七三漁夫中西久吾(二四)は昨三十日午前七時頃出漁準備中誤つて舟捲き用のロップに体を卷き込まれ胴体其他に重傷を負ひ平町南町上田醫院で應急手當を加へたが午後八時死亡した

花信いろいろ

二日の休みを當地に參り申候。櫻尙は蕾固く候、御健在を祈り上げ候。(花卷にて山田勇生)

五分咲きの花を追ふて昨日當地へ參り候。氣候も福島より寒く四國の深山には白雪尙ほ深く奥地の春を思はせ居り候(山形にて大森幾一生)

木炭組合 存廢協議準備會

明二日の理事會合

濱三郡木炭同業組合では明二日午後一時から理事會を開き存廢を協議する臨時總會の日取りを決定する

○○○○平署警官異動 平署では一昨二十九日左記警官の異動を行つた(高久は當分豊間が乘勤)

署外勤 宮内 澤渡へ
澤渡 櫻井 入山へ
入山 泉 署外勤へ
豊間 加藤 小川へ
高久 羽賀 豊間へ

敎育會總集

本縣敎育會石城郡部會總集會は來る廿八日午前九時から第一校講堂に開催し會計報告、本郡在職廿五年勤續者及五ケ年無缺勤者の表彰をなし後會員の意見發表あり元東京高師敎諭川村理助氏を招聘して講演會を開くと等に就て協議した

尋卒が首位

磐中進學成績

磐中に於ける今年度新入學生は左の如く磐女同樣尋卒が斷然首位である

尋二〇四、高一、三三、高二、一三

若人は悶ゆ 初夏惱まし

兄弟喧嘩の坑夫喜久太郎 風の如く去つた千代子 平署へ搜索願

内郷村宮坑夫乘吉弟田代喜久太郎(二六)は實兄と喧嘩して二十六日家出し親戚を賴つて上京したらしいと、好間村北好間亥之吉長女佐藤千代子(二四)は二十七日無斷家出したので夫々身寄から昨三十日平署に搜索方を願ひ出た

○○○○電話事務員採用 平局では此程の電話交換手試驗で高女卒二名、尋卒三名計五名を新規採用した

日立卓球試合 川前村日立第一對第二兩發電所卓球試合は昨三十日午前十時から第一發電所で行つたが二十三對十九で第二發電所快捷した

○○○○江名區長會 二十九日午後一時から役場に開き納稅督勵、産業獎勵、生活改善

保護者會費全免調査 平三小學校では目下保護者會費全免の恩賜兒童數を調査中であるが昨年は三校合して百名位あり今年も相當の數に上るだらうと

○○○○佐々敎諭榮轉 磐中敎諭佐々國雄氏は今回熊本縣高瀨高女敎諭に榮轉明二日午前十時四十二分で赴任する

○○○○澤村神社例祭 草野村澤村神社の祭典は今一日執行し活動煙火の餘興で盛典であつた

町村農會技術員會 は二日午後一時から平各種團体事務所で開く

○○○○澤渡青年總會 今一日午前九時から小學校に開き夏期講習會其他を協議し終て演說會を開いた

平區判決一束

昨年五月六日泉村大字下川字宣手旅人宿上遠野正太郎から宿料一圓六十錢を踏倒して逃走し其外三月廿八日迄前後六回四十餘圓の詐欺を働いた泉村大字八木屋土工高原藤吉(三三)は一ヶ年、昨年一月より十一月迄の間に平町播槌小路鈴木部司方雞舍より雞九十一羽九十圓の外同町高田隆方から皐月一本價格八圓、同町坂本亥之吉方から五葉松一本五十圓等を竊取した平町新川町坂本十郎(一九)假名は六ヶ月、一昨年十月新潟縣中頸城郡新井町城倉可成の依賴を受け湯本町澤田ヨシ外五名から取立てた貸金を横領費消した湯本町字三函二〇八古物商松崎澤吉(四〇)は六ヶ月を何れも廿八日竹内判事係りで開廷言渡された

中野惣吉氏

中野浩忠氏女婿神谷村中野惣吉氏は過般來病氣の爲平町市原病院に入院加療中の處藥石効無く一昨二十九日午後六時長逝、明後三日午後二時自宅出棺金臺寺に於て佛葬を營むと、行年五十五歲、氏は小川江筋議員として水路改修工事に盡瘁した溫厚の士とて一般から他界を惜まれてゐる

植田署管内 明二日午前自動車檢査 九時から同署前で行ひ終つて自動車協會支部總會を開く

○○○○橋本氏新住所 磐中校長から高田師範校長に榮轉した橋本文壽氏の住所は高田市南城町一丁目三十三ノ二に決定したと

○○○○豊間村農會 十九日午後一時から小學校に農事傳習會を開き終つて縣農會辻技師其他の自力更生講演會を催す

○○過傷。 双葉郡富岡町大字小濱字驛二運轉手鈴木善吉(三〇)は去る三月廿八日茨城縣網岡村驛地内に於て自轉車にて進行中の水戸市金剛兵吾(四〇)に衝突全治三週間の傷を負はせ平·竹内判事から業務上過失傷害として略式三十圓の罰金を言渡された

父惣吉儀病氣の處療養相叶はず四月二十九日午後六時死去仕候間此段辱知各位に謹告仕候 匆々

追て葬送の儀は五月三日午後二時自宅出棺當村金臺寺に於て佛式により相營み可申候

昭和八年四月三十日

石城郡神谷村鹽

嗣子 中野 二郎
親戚 中野一衛
總代 中野清治
井上茂作
友人總代 佐藤久三郎

舊四月五日 戊辰 大安 火曜 新五月二日 八 建 翼宿

諸判定總帶 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部

▲一白の人 人の爲めに骨を折ても感情は却て惡しき日▲二黑の人 平穩無事なれども物事遲々として進まぬ日▲三碧の人 自然と高振りの氣を生じ失敗を招き易き日▲四綠の人 蹉跌沈滯し易き日勤めば一層の苦みを見ん▲五黃の人 極端の變化を避け居れば思ひの字る日なり▲六白の人 眞面目に邁進すれば何事も通達すべき吉日▲七赤の人 大利は至せいより生ると知り着實に進む事▲八白の人 誘惑の魔手を避け逃はず當業を勵まるべし▲九紫の人 天稟の宜敷次第に我が身に廻り來たる吉日